

正誤表 中期目標の達成状況報告書

東京大学

	頁数・行数等	誤	正
1	3 頁・12 行 94 頁・48 行 121 頁・10 行	TEMPO 触媒 <u>参加</u>	TEMPO 触媒 <u>酸化</u>
2	5 頁・27 行	7 つ自治体	7 つの自治体
3	15 頁・16 行	後掲資料 <u>27</u> : 4 ターム制の実施 P <u>19</u> 参照	後掲資料 <u>25</u> : 4 ターム制の実施 P <u>17</u> 参照
4	25 頁・資料 36	(資料 36 : 学部規則抜粋「法学部の事例」)	(資料 36 : 学部規則抜粋「法学部の事例」)
5	27 頁・39 行 32 頁・26 行 148 頁・16 行	<u>寄付</u>	<u>寄附</u>
6	32 頁・3 行	状況 <u>(戦略的・意欲的計画)</u> 【★】 【8】	状況 【8】
7	39 頁・22 行 43 頁・5 行 43 頁・27 行 45 頁・7 行	文部科学省の <u>大学教育改革支援プログラム</u> である博士課程教育リーディングプログラ ム	文部科学省の博士課程教育リーディングプ ログラム
8	47 頁・12 行	方針」 <u>(前掲資料 25 : P17 参照)</u> を定め、	方針」 を定め、
9	55 頁・資料 72	計 専門職 <u>872</u>	計 専門職 <u>72</u>
10	57 頁・46 行 59 頁・資料 80	(資料 80 : 学部 <u>後期課程</u> 及び大学院	(資料 80 : 学部及び大学院
11	59 頁・資料 80	【学部<u>後期課程</u>】	【学部】
12	67 頁・6 行	具体的には、 <u>教養学</u> 教養学部前期課程	具体的には、教養学部前期課程

	頁数・行数等	誤	正
13	84 頁・8 行	説明会等の開催状況（平成 26、27 年度）。	説明会等の参加学生数の推移）。
14	94 頁・15 行	大学の基本理念・氏名のもとに	大学の基本理念・使命のもとに
15	119 頁・10 行	（【計画 3－2－1－1】P147 参照）。	（【計画 3－2－1－1】P143 参照）。
16	122 頁・13 行	努め、平成 27 年 5 月 1 日現在 523 名	努め、外国人教員・研究員は、平成 27 年 5 月 1 日現在 523 名
17	124 頁・20 行	資料 130：URA 推進室の任務、沿革等	資料 139：URA 推進室の任務、沿革等
18	128 頁・19 行	と政策提言」）。	と政策提言」 <u>（抜粋）</u> ）。
19	129 頁・資料 147 （写真）		【写真クレジットの追加】 「Greg Webb / IAEA Imagebank CC BY-SA 2.0」
20	134 頁・資料 156	寄附講座	寄付講座
21	134 頁・資料 156	寄附研究部門数	寄付研究部門数
22	137 頁・7 行	学生を惹きつける <u>る</u> 目的で	学生を惹きつける目的で
23	145 頁・21 行	プログラム数の推移)	プログラム数の推移 <u>各年度 10 月現在</u>)
24	157 頁・20 行	資料 192：東京大学大学院工学系研究科	資料 193：東京大学大学院工学系研究科
25	158 頁・資料 193	（資料 193：東京大学大学院工学研究科にて初めてインド鉄道省幹部候補生を受入（プレスリリース）	（資料 193：東京大学大学院工学研究科にて初めてインド鉄道省幹部候補生を受入（プレスリリース） <u>）</u>
26	164 頁・12 行	7. 成 28 年 1 月から、	7. <u>平成</u> 28 年 1 月から、

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学法学政治学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	2－8頁・3行	配布	配付

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学工学系研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	8－5頁・5行	「 <u>English Writing Consultant</u> 」	「 <u>ERIC (English wRIting Consultant)</u> 」

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学文学部

	頁数・行数等	誤	正
1	10-4 頁・資料 10-6	講師以上の教員の経歴 <u>上</u>	講師以上の教員の経歴
2	10-6 頁・資料 10-9	日本史専修課程	日本史 <u>学</u> 専修課程
3	10-6 頁・資料 10-9	西洋 <u>中世史</u> 専修課程	西洋 <u>史学</u> 専修課程
4	10-17 頁・12 行	日本史専修課程	日本史 <u>学</u> 専修課程

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学人文社会系研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	11-19 頁・資料 11-29	<u>国語学</u>	<u>日本語日本文学</u>
2	11-19 頁・資料 11-29	<u>国語学</u>	<u>日本語日本文学</u>
3	11-19 頁・資料 11-29	<u>国語学</u>	<u>日本語日本文学</u>
4	11-23 頁・7～8 行	博士課程 <u>終了</u> 後	博士課程 <u>修了</u> 後

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学経済学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	17-5 頁・下から 5 行	大学院教育を <u>うける</u>	大学院教育を <u>受ける</u>
2	17-7 頁・下から 2 行	<u>供</u> することで、	<u>提供</u> することで、
3	17-10 頁・下から 2 行	<u>果</u> している。	<u>果た</u> している。

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学教養学部

	頁数・行数等	誤	正
1	18-13 頁・3 行	平成 <u>23</u> 年度	平成 <u>25</u> 年度

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学教育学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	21-16 頁・資料 21-21	<u>博士課程</u>	<u>修士課程・博士課程</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学薬学部

	頁数・行数等	誤	正
1	22-22 頁・4 行	<u>98.7%</u>	<u>98.3%</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学新領域創成科学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	25-6 頁・ 資料 25-4	ファンクショナル <u>イメージング</u> センタ ー	ファンクショナル <u>プロテオミクス</u> セン ター
2	25-8 頁・ 資料 25-9	(平成 22 年度修士課程) <u>458</u> (平成 27 年度修士課程) <u>462</u> (平成 22 年度博士課程) <u>162</u> (平成 23 年度博士課程) <u>159</u>	<u>452</u> <u>443</u> <u>159</u> <u>160</u>
3	25-24 頁・25 行	<u>25%</u>	<u>18%</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

東京大学情報理工学系研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	26-4 頁・4 行	ICT グローバル・ <u>クリエーティブ</u> リーダー ー育成プログラム	ICT グローバル・ <u>クリエイティブ</u> リーダー ー育成プログラム
2	26-24 頁・1 行	ICT グローバル・ <u>クリエーティブ</u> リーダー ー育成プログラム	ICT グローバル・ <u>クリエイティブ</u> リーダー ー育成プログラム

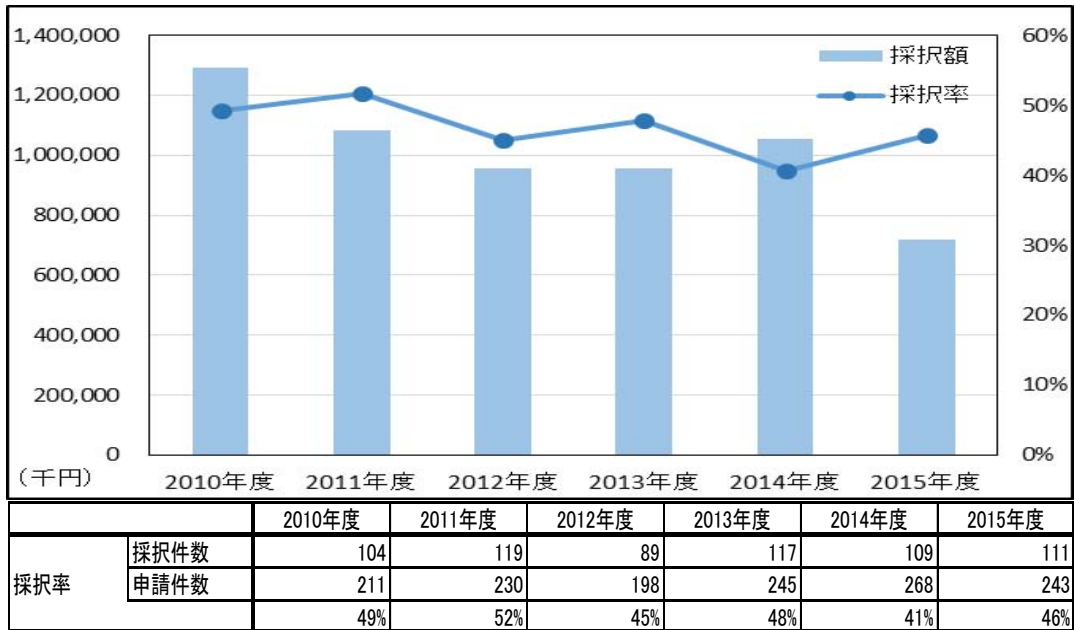
正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学医学部・医学系研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	2－5頁・13行	42億円（受託・共同研究等：42億円、寄附金4億円、科学研究費助成事業：14億円、機関補助金：4億円となっている	42億円（受託・共同研究等：20億円、寄附金4億円、科学研究費助成事業：14億円、機関補助金：4億円）となっている
2	2－6頁・資料2－5	別紙参照	別紙参照
3	2－8頁・資料2－8	別紙参照	別紙参照
4	2－10頁・資料2－12	別紙参照	別紙参照
5	2－10頁・資料2－13	別紙参照	別紙参照

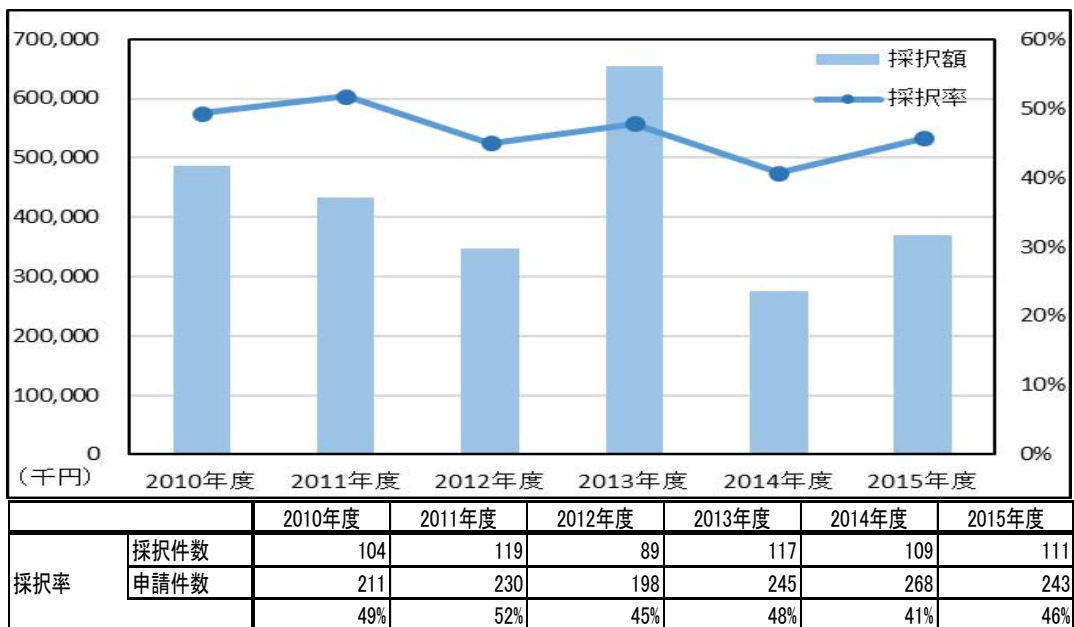
【誤】

資料 2-5：科学研究費助成事業採択率（新規課題）



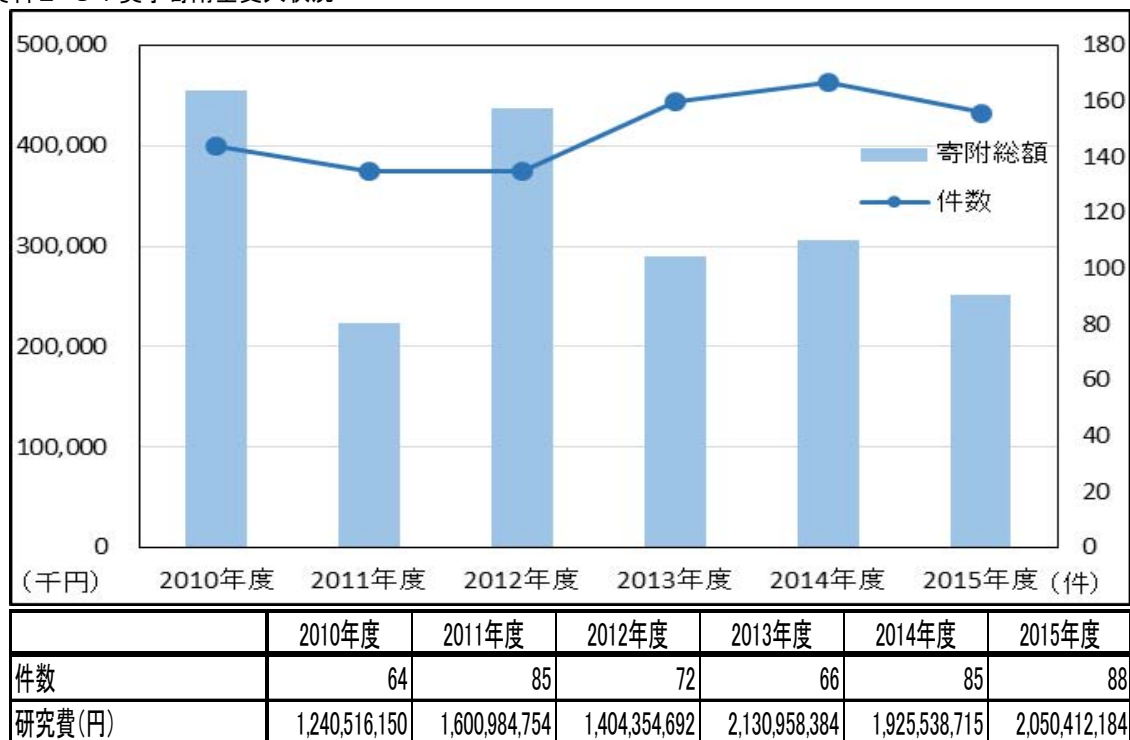
【正】

資料 2-5：科学研究費助成事業採択率（新規課題）



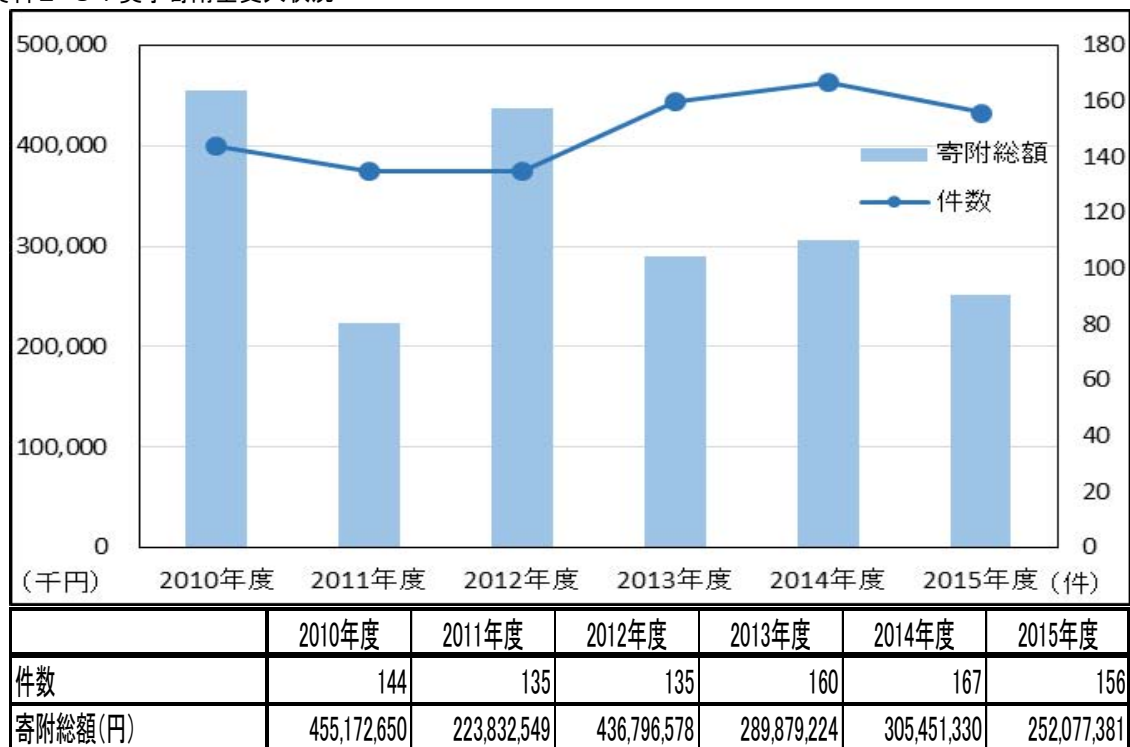
【誤】

資料 2-8：奨学寄附金受入状況



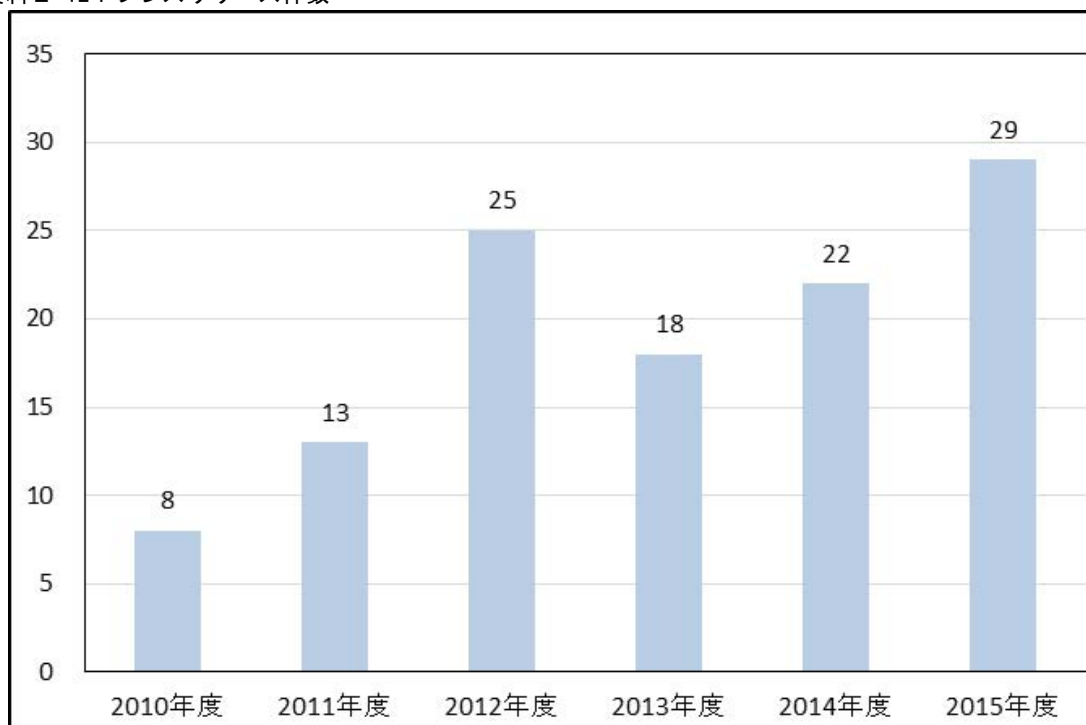
【正】

資料 2-8：奨学寄附金受入状況



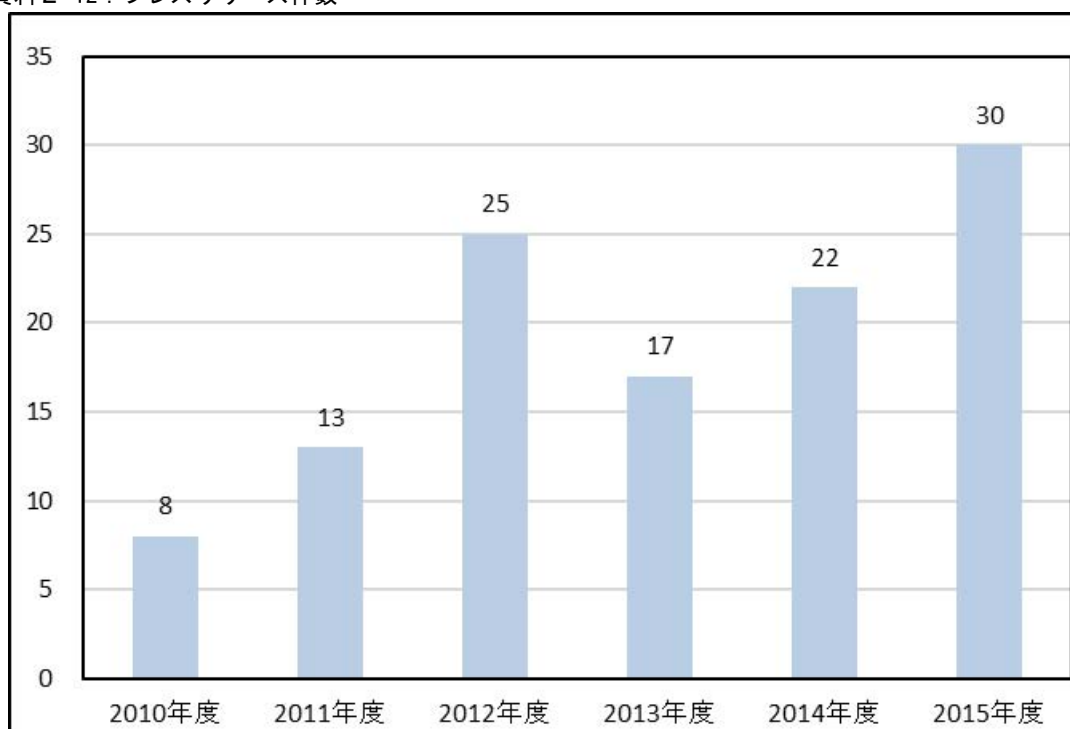
【誤】

資料 2-12：プレスリリース件数



【正】

資料 2-12：プレスリリース件数



<2013 年度>

【誤】計 18 件

4月1日	肥満から起こる様々な自己免疫病の決定的な原因の発見－AIMによる様々な現代病に対する治療の可能性－
	宮崎 徹(疾患生命工学センター分子病態医科学 教授)、新井郷子(疾患生命工学センター分子病態医科学 講師)
	『Cell Reports』
	Obesity-associated autoantibody production requires AIM to retain IgM immune complex on follicular dendritic cells
4月15日	鞭毛モーターの司令塔を発見－鞭毛を動かす分子モーターの活性を制御する中心装置の存在
	吉川雅英(生体構造学 教授)、小田 賢幸(生体構造学 助教)
	『Current Biology』
	Identification of the Outer-Inner Dynein Linker as a Hub Controller for Axonemal Dynein Activities
(略)	
1月15日	脳症の臨床症状と新しい治療法を明らかに－2011年の大腸菌O-111食中毒を事例に－
	水口 雅(発達医科学 教授)
	『Neurology』
	Clinical and Radiological Features of Encephalopathy during 2011 E. coli O111 Outbreak in Japan
3月3日	治験の段階にある抗がん剤が統合失調症モデル動物にも効果－思春期のマウスで過剰なシナプス除去を予防－
	林(高木) 朗子(疾患生命工学センター構造生理学 助教)
	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America
	PAKs inhibitors ameliorate schizophrenia-associated dendritic spine deterioration in vitro and in vivo during late adolescence.

【正】計 17 件

4月1日	肥満から起こる様々な自己免疫病の決定的な原因の発見－AIMによる様々な現代病に対する治療の可能性－
	宮崎 徹(疾患生命工学センター分子病態医科学 教授)、新井郷子(疾患生命工学センター分子病態医科学 講師)
	『Cell Reports』
	Obesity-associated autoantibody production requires AIM to retain IgM immune complex on follicular dendritic cells
4月15日	鞭毛モーターの司令塔を発見－鞭毛を動かす分子モーターの活性を制御する中心装置の存在
	吉川雅英(生体構造学 教授)、小田 賢幸(生体構造学 助教)
	『Current Biology』
	Identification of the Outer-Inner Dynein Linker as a Hub Controller for Axonemal Dynein Activities
(略)	
1月15日	脳症の臨床症状と新しい治療法を明らかに－2011年の大腸菌O-111食中毒を事例に－
	水口 雅(発達医科学 教授)
	『Neurology』
	Clinical and Radiological Features of Encephalopathy during 2011 E. coli O111 Outbreak in Japan

<2015 年度>

【誤】計 29 件

【正】計 30 件

4月9日	糖・脂質代謝に重要なアディポネクチン受容体の立体構造を解明ーメタボリックシンドローム・糖尿病の治療薬の開発へ前進ー 門脇 孝(代謝・栄養病態学 教授)、山内敏正(代謝・栄養病態学 准教授)、横山茂之(理化学研究所 上席研究員) 『Nature』 Crystal structures of the human adiponectin receptors
4月20日	哺乳類と爬虫類-鳥類は、独自に鼓膜を獲得～2億年以上前の進化の痕跡を発生学実験で明らかに～ 栗原裕基(代謝生理学 教授)、北沢太郎(大学院医学系研究科 大学院生:研究当時)、倉谷滋(理化学研究所 主任研究員)、武智正樹(理陰区研究所 研究員:研究当時) 『Nature Communications』 Developmental genetic bases behind the independent origin of the tympanic membrane in mammals and diapsids
4月21日	記憶を正しく思い出すための脳の仕組みを解明ー側頭葉の信号が皮質層にまたがる神経回路を活性化～ 竹田真己(統合生理学 特任講師:研究当時) 『Neuron』 Top-down regulation of laminar circuit via inter-area signal for successful object memory recall in monkey temporal cortex
4月28日	アルツハイマー脳の病理変化と神経活動の関係を光遺伝学を用いて実証 岩坪 威(神経病理学 教授) 『Cell Reports』 Chronic optogenetic activation augments A pathology in a mouse model of Alzheimer disease
5月7日	注意欠如多動性障害の薬物治療効果を予測するための客観的な指標の開発へ 石井礼花(こころの発達医学分野 助教)、笠井清登(精神医学分野 教授)、金生由紀子(こころの発達医学分野 准教授) 『Neuropsychopharmacology』 Neuroimaging-aided prediction of the effect of methylphenidate in children with attention deficit hyperactivity disorder—a randomized controlled trial
6月2日	高等生物のオートファジーの始動に必要な因子の立体構造を解明 水島 昇(分子生物学 教授)、貝塚剛志(分子生物学 特任研究員)、野田展生(微生物化学研究所 主席研究員)、鈴木浩典(微生物化学研究所 博士研究員) 『Nature Structural & Molecular Biology』 Structure of the Atg101-Atg13 complex reveals essential roles of Atg101 in autophagy initiation
6月22日	小さなRNAの暗号解読に成功～右利き・左利きの謎を解明:プレジジョンメディシン時代の核酸医薬へ新たな一歩～ 鈴木 洋(分子病理学 特任助教:研究当時)、宮園浩平(分子病理学 教授) 『Nature Structural & Molecular Biology』 Small-RNA asymmetry is directly driven by mammalian Argonautes
7月3日	横紋筋肉腫におけるゲノム・エピゲノム異常の全体図を解明ー横紋筋肉腫を4群に分類～ 滝田順子(小児科学 准教授)、関 正史(大学院医学系研究科 大学院生)、油谷浩幸(先端研 教授)、小川誠司(京都大学 教授) 『Nature Communications』 Integrated genetic and epigenetic analysis defines novel molecular subgroups in rhabdomyosarcoma
7月17日	匂いで摂食や警戒のモチベーションが生じる神経メカニズム～大脳のモチベーション領域を発見～ 村田航志(細胞分子生理学 特任助教:研究当時)、山口正洋(細胞分子生理学 講師)、森 憲作(細胞分子生理学 教授:研究当時) 『The Journal of Neuroscience』 Mapping of Learned Odor-Induced Motivated Behaviors in the Mouse Olfactory Tubercle
8月31日	神経活動に依存したキネシンのリン酸化による「荷積み」機構の解明 一ノ瀬聡太郎(分子構造・動態・病態学寄付講座 特任研究員)、小川寛之(分子構造・動態・病態学寄付講座 特任助教)、廣川信隆(分子構造・動態・病態学寄付講座 特任教授) 『Neuron』 Mechanism of Activity-dependent Cargo Loading via the Phosphorylation of KIF3A by PKA and CaMKIIa
9月1日	細胞内の骨格・微小管の伸び縮みを制御し、脳神経回路網形成をコントロールするメカニズムを解明 小川寛之(分子構造・動態・病態学寄付講座 特任助教)、廣川信隆(分子構造・動態・病態学寄付講座 特任教授) 『Cell Reports』 Microtubule Destabilizer KIF2A Undergoes Distinct Site-specific Phosphorylation Cascades that Differentially Affect Neuronal Morphogenesis
9月4日	オキシトシン経鼻剤連日投与による自閉スペクトラム症中核症状の改善を世界で初めて実証～新しい治療法の確立をめざして～ 山末英典(精神神経科 准教授) 『BRAIN』 Clinical and neural effects of six-week administration of oxytocin on core symptoms of autism
9月8日	末梢神経の発達における新たな仕組みの解明ー髄鞘形成におけるカルシウムシグナルの重要性が明らかに～ 飯野正光(細胞分子薬理学 教授)、稲生大輔(細胞分子薬理学 特任助教)、相良洋(医科学研究所 助教)、鈴木純二(大学院医学系研究科 博士課程4年生)、金丸和典(細胞分子薬理学 助教)、大久保洋平(細胞分子薬理学 講師) 『Cell Reports』 Neuronal Regulation of Schwann Cell Mitochondrial Ca ²⁺ Signaling during Myelination

9月14日	TGF- β による小細胞肺がん細胞の細胞死制御の分子メカニズムを解明 宮園浩平(分子病理学 教授)、江幡正悟(分子病理学 特任講師)、村井文彦(大学院医学系研究科 博士課程4年生)、鯉沼代造(分子病理学 准教授)、深山正久(人体病理・病理診断学 教授)、牛久 綾(病理部 特任講師) 『Cell Discovery』 EZH2 promotes progression of small cell lung cancer by suppressing the TGF- β -Smad-ASCL1 pathway
9月25日	3段ロケット方式のエピゲノム指令でがんが悪性化する～第6の遺伝暗号解除で前立腺がんホルモン療法は効かなくなる～ 井上 聡(抗加齢医学講座 特任教授)、高山賢一(老年病科 助教) 『Nature Communications』 TET2 repression by androgen hormone regulates global hydroxymethylation status and prostate cancer progression.
9月30日	MERS(中東呼吸器症候群)の致死率および死亡リスク要因をリアルタイムで推定する統計学的手法を開発～患者数が少なくとも推定可能に～ 西浦 博(国際地域保健学 准教授) 『BMC Medicine』 Real-time characterization of risks of death associated with the Middle East respiratory syndrome (MERS) in the Republic of Korea, 2015
10月1日	貯蔵された記憶を可視化・消去する新技術を開発～記憶のメカニズム解明に前進～ 河西春郎(疾患生命工学センター構造生理学 教授) 『Nature』 Labelling and optical erasure of synaptic memory traces in the motor cortex
10月6日	神経伝達物質やインスリン分泌の新しい可視化法開発～分泌速度の謎を解明～ 河西春郎(疾患生命工学センター構造生理学 教授)、高橋倫子(疾患生命工学センター構造生理学 講師) 『Nature Communications』 Two-photon fluorescence lifetime imaging of primed SNARE complexes in presynaptic terminals and β cells
10月30日	自己免疫疾患を防ぐ遺伝子Fezf2の発見～Fezf2は自己抗原の発現を制御し免疫寛容を成立させる～ 高場啓之(免疫学 特任研究員)、高柳 広(免疫学 教授) 『Cell』 Fezf2 Orchestrates a Thymic Program of Self-Antigen Expression for Immune Tolerance
11月9日	自殺未遂者への救急医療における精神科医療の充実を～自殺未遂等の過量服薬による入院患者への精神科介入が、再入院の減少と関連～ 金原明子(ユースメンタルヘルス講座 特任助教)、康永秀生(臨床疫学・経済学 教授)、笠井清登(精神医学 教授) 『British Journal of Psychiatry Open』 Psychiatric Intervention and Repeated Admission to Emergency Centres Due to Drug Overdose
11月18日	血管の形をつくる細胞メカニズムを解明～生き物の形態が2次元・3次元で秩序よくつくられるしくみを実証～ 栗原裕基(代謝生理化学 教授)、杉原 圭(医学部生:研究当時、現 附属病院臨床研修医)、西山功一(熊本大学 特任講師/主任研究員) 『Cell Reports』 Autonomy and non-autonomy of angiogenic cell movements revealed by experiment-driven mathematical modeling
11月24日	脳で記憶を支える『受容体輸送の脱線防止機構』を解明 廣川信隆(分子構造・動態・病態学寄付講座 特任教授)、武井陽介(細胞生物学分野 准教授:研究当時、現:筑波大学 教授) 『The Journal of Neuroscience』 Defects in synaptic plasticity, reduced NMDA-receptor transport, and instability of PSD proteins in mice lacking microtubule-associated protein 1A (MAP1A).
12月4日	神経難病が起こる仕組みを解明～多発性硬化症の新しい治療法に道～ Matteo M. Guerrini(免疫学 学術支援職員:研究当時)、岡本一男(免疫学 助教)、高柳 広(免疫学 教授) 『Immunity』 Inhibition of the TNF family cytokine RANKL prevents autoimmune inflammation in the central nervous system
12月21日	AIM投与による急性腎不全治療につながる革新的成果 宮崎 徹(疾患生命工学センター分子病態医科学部門 教授) 『Nature Medicine』 Apoptosis inhibitor of macrophage protein enhances intraluminal debris clearance and ameliorates acute kidney injury in mice
1月28日	2型糖尿病に関わる新たな遺伝子領域を発見～新たな治療薬開発の一助に～ 門脇 孝(代謝・栄養病態学 教授)、前田士郎(理化学研究所 チームリーダー/琉球大学 教授、今村美菜子(理化学研究所 客員研究員/琉球大学 准教授) 『Nature Communications』 Genome-wide association studies in the Japanese population identify seven novel loci for type 2 diabetes
2月2日	細胞内タンパク質輸送の異常が記憶・学習等の脳高次機能に障害を与える分子メカニズムを発見—精神疾患の新しい薬の開発に期待— 狩野方伸(神経生理学 教授)、中澤敬信(大阪大学 特任准教授)、橋本亮太(大阪大学 准教授) 『Nature Communications』 Emerging roles of ARHGAP33 in intracellular trafficking of TrkB and pathophysiology of neuropsychiatric disorders

3月10日	免疫系が骨を治す～骨折治癒の仕組みを解明～
	小野岳人(免疫学 博士研究員:研究当時)、岡本一男(免疫学 助教)、高柳 広(免疫学 教授)
	『Nature Communications』
	IL-17-producing γ δ T cells enhance bone regeneration
3月14日	胃がん発症における発がん細菌と発がんウイルスの連携
	畠山昌則(微生物学 教授)
	『Nature Microbiology』
	Host SHP1 phosphatase antagonizes Helicobacter pylori CagA and can be downregulated by EBV
3月14日	なぜ私たちは眠るか―眠りの素は細胞内カルシウム?―
	上田泰己(システムズ薬理学 教授/理化学研究所 細胞デザインコア長(兼任))
	『Neuron』
	Involvement of Ca^{2+} -dependent hyperpolarization in sleep duration in mammals.
3月22日	AYA世代に多い白血病の原因を解明～革新的な治療法へ期待～
	間野博行(細胞情報学 教授)
	『Nature Genetics』
	Recurrent DUX4 fusions in B-cell acute lymphoblastic leukemia of adolescents and young adults

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学文学部・人文社会系研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	4-4 頁・7～8 行	ノーベル <u>賞</u> 文学賞	ノーベル文学賞
2	4-13 頁・22 行	解説 <u>著</u>	解説書
3	4-13 頁・35 行	学術 <u>著</u>	学術書
4	4-13 頁・36 行	人文社会研究科	人文社会 <u>系</u> 研究科

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学農学部・農学生命科学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	6-10 頁・資料 6-13	科研費（金額） 2010 年度 1,497,81 2011 年度 1,692,92 2012 年度 1,766,64 2013 年度 1,934,94 2014 年度 1,734,92 2015 年度 1,547,57 受託研究（金額） 2010 年度 1,667,16 2011 年度 1,491,57 2012 年度 1,474,89 2013 年度 1,763,18 2014 年度 1,741,11 2015 年度 1,509,85	科研費（金額） 2010 年度 1,497,81 <u>2</u> 2011 年度 1,692,92 <u>5</u> 2012 年度 1,766,64 <u>0</u> 2013 年度 1,934,94 <u>5</u> 2014 年度 1,734,92 <u>5</u> 2015 年度 1,547,57 <u>7</u> 受託研究（金額） 2010 年度 1,667,16 <u>1</u> 2011 年度 1,491,57 <u>4</u> 2012 年度 1,474,89 <u>9</u> 2013 年度 1,763,18 <u>2</u> 2014 年度 1,741,11 <u>7</u> 2015 年度 1,509,85 <u>2</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学教養学部・総合文化研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	8-16 頁・資料 8-13	若手 <u>研究者</u> 賞	若手 <u>科学者</u> 賞

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学数理科学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	11-5 頁・31 行	数学 <u>共同</u> プログラム	数学 <u>協働</u> プログラム

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学新領域創成科学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	12-14 頁・ 資料 12-15	ファンクショナル <u>イメージング</u> センタ ー	ファンクショナル <u>プロテオミクス</u> セン ター

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学情報理工学系研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	13-2 頁・20 行	第 2 <u>位</u> 期中期目標	第 2 期中期目標
2	13-13 頁・9 行	<u>Eruasumu</u>	<u>Erasumu</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学地震研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	17-10 頁・ 下から 3 行	多くの教員が地震調査研究推進本部地震や火山噴火の調査に関する国の委員会等に参加している	多くの教員が地震調査研究推進本部等、地震や火山噴火の調査に関する国の委員会等に参加している
2	17-11 頁・ 6 行	160 機関 <u>1340 に</u>	160 機関 <u>1340 人に</u>
3	17-13 頁・ 2 行	科学技術・学術審議会が建議した災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の	科学技術・学術審議会が建議した「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学東洋文化研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	18-3 頁・2 行	<u>6</u> 部門	<u>5</u> 部門
2	18-5 頁・ 資料 18-5	<u>Zupanov</u>	<u>ZUPANOV</u>
3	18-12 頁・ 資料 18-9	平成 <u>25</u> 年 5 月 23 日	平成 <u>26</u> 年 5 月 23 日

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学社会科学研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	19-5 頁・9 行	研究者 <u>の</u> 客員研究員	研究者 <u>を</u> 客員研究員
2	19-6 頁・ 資料 19-5	2015. <u>1012</u>	2015. <u>10. 12</u>
3	19-6 頁・ 資料 19-5	チャンスと課題 <u>」</u>	チャンスと課題 <u>　</u>
4	19-9 頁・11 行	資料 19- <u>8。</u>	資料 19- <u>8　</u>
5	19-9 頁・28 行	社研パネル調査報告会	社研パネル調査プロジェクト研究成果 研究会

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学生産技術研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	20-9 頁・ 資料 20-12 (凡例部)	寄 <u>付</u> 金	寄 <u>附</u> 金
2	20-17 頁・ 資料 20-21	第 28 回 ICUS オープンレクチャー 「時代の潮流を踏まえた防災まちづく りの在り方・進め方～地域の多様性への 対応と普遍化～	第 28 回 ICUS オープンレクチャー 「時代の潮流を踏まえた防災まちづく りの在り方・進め方～地域の多様性への 対応と普遍化～」

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学分子細胞生物学研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	22-17 頁・4 行	文部科学大臣表彰 <u>若手科学賞</u>	文部科学大臣表彰 <u>若手科学者賞</u>
2	22-17 頁・ 資料 22-19	文部科学大臣表彰 <u>若手科学賞</u>	文部科学大臣表彰 <u>若手科学者賞</u>
3	22-18 頁・8～9 行	文部科学大臣表彰 <u>若手科学賞</u>	文部科学大臣表彰 <u>若手科学者賞</u>
4	22-19 頁・20 行	文部科学大臣表彰 <u>若手科学賞</u>	文部科学大臣表彰 <u>若手科学者賞</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学宇宙線研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	23-8 頁・ 資料 23-6・注	…第 1 期の現況	…第 1 期の現況 <u>調査表を参考に算出した。</u>
2	23-10 頁・8 行	第 2 期平均数 <u>109.5</u>	第 2 期平均数 <u>109.3</u>
3	23-10 頁・ 資料 23-10	<u>118</u>	<u>117</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学物性研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	24-13 頁・5～6 行	強磁場 <u>子</u> ラボラトリー計画	強磁場 <u>コ</u> ラボラトリー計画

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学情報基盤センター

	頁数・行数等	誤	正
1	28-12 頁・ 資料 28-14	Interop <u>Tokhyo</u> 実行委員会	Interop <u>Tokyo</u> 実行委員会
2	28-14 頁・ 資料 28-15	科学技術振興機構戦略的 <u>想像</u> 研究推進 事業	科学技術振興機構戦略的 <u>創造</u> 研究推進 事業

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

東京大学海洋基礎生物学研究推進センター

	頁数・行数等	誤	正
1	30-2 頁・「Ⅰ」部分 8 行目	新領域創 <u>生</u> 科学研究科	新領域創 <u>成</u> 科学研究科
2	30-4 頁・「Ⅱ②」部 分 1 行目	寄 <u>付</u> 金	寄 <u>附</u> 金
3	30-4 頁・「Ⅱ②」部 分 2 行目	基盤 (S)	基盤 <u>研究</u> (S)
4	30-4 頁・「Ⅱ②」部 分 2-3 行目	基盤 (B)	基盤 <u>研究</u> (B)
5	30-4 頁・「Ⅱ②」部 分 4 行目	寄 <u>付</u> 金	寄 <u>附</u> 金